

山形・堂の前遺跡

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 所在地 | 山形県鮎海郡八幡町法連寺 |
| 2 | 調査期間 | 一九七八年（昭53）八月～九月：第六次調査 |
| 3 | 発掘機関 | 山形県教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 佐藤庄一 |
| 5 | 遺跡の種類 | 不明 |
| 6 | 遺跡の年代 | 平安時代後半 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 堂の前遺跡については、一九七四年（昭和49）以来、八次に発掘調査が行われてきたが、遺跡の範囲、性格など詳しいことだ判明していない。 |
| | 木簡は第六次調査で三点出土している。三点の木簡はSX3は自然の河川とも思われるが、一ヵ所溝から出土した。SX3はよく分かっていない。溝内からは、黒色土器、赤色土器などが伴出しておる、これらの遺物が平安時代と考えられる。 | |

思われる。二・三字

目の口と縄は戸と繩の合せ文字のよう
にみえるが、二文字で蛇を意味する。形

は、上端を山形に削
ぎ、下端も鋭く尖ら
せていて、三点とも

ほぼ相似形を呈して
いるが、長さは一定

現存長五一cm、最大で全長三三cmを測る

木簡は第六次調査で三点出土している。三点の木簡はSX3の大溝から出土した。SX3は自然の河川とも思われるが、一部人工も加えられており、性格はよく分かっていない。溝内からは、須恵器、黒色土器、赤色土器などが伴出しており、これらの遺物からおよそ

8 木簡の釈文・内容

山口繩急々如律令

の八字が縦書きされており、筆跡も全て同一人物の手になるものと

9
関係文獻
山形県教育
委員会
「堂の前遺跡六・七次発掘調査説明資料」

（尾形與典）

